

綾瀬市立綾北中学校

研究テーマ：持続可能な社会に向けた価値観を持った生徒の育成～ESDに重点を置いた指導の改善を図る～

1 実践の目的

現行の学習指導要領では、一人ひとりの生徒を「持続可能な社会の創り手とすることができるようにする」ことを求めている。そこで綾北中学校では、3年前より研究テーマにESD（Education for Sustainable Development）を取り入れて研究を進めることにした。ESDとは、持続可能な社会に向けた創り手を育てる教育である。ESDで育みたい力（能力・態度）について、「学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究〔最終報告書〕」では、以下の7つを示している。

- ・批判的に考える力
- ・他者と協力する態度
- ・未来を予測して計画を立てる力
- ・つながりを尊重する態度
- ・多面的、総合的に考える力
- ・責任を重んじ進んで参加する態度
- ・コミュニケーションを行う力

本校は、外国につながるのある生徒の割合が非常に高く、さらに4つの小学校区（天台、寺尾、綾瀬、綾北）から進学してくる「多様性の空間」である。一方、さまざまな家庭環境の生徒がおり、課題を抱える生徒も多く在籍している。その中でも、落ち着いた学習環境を実現してきた本校の教育を紐解いていくと、たとえば年度初めの学級活動で他者を理解し尊重する価値観を育むためにSST（Social Skill Training）を時間をかけて実施したり、道徳において「モラルジレンマ教材」を用いて、正解のない問いを考えさせる取り組みを全校で行ったりするなど、これまでに「ESDで育みたい力」のうち、「多面的、総合的に考える力」や「他者と協力する態度」等を無意識のうちに育てていた。そこで、研究主題にESDをおくことで、こうした本校の教育実践をより深めていきたいと考えた。

また、本校の校内研究で従前取り組んできた研究は、言語活動を通した言語能力の育成に焦点を当てたものであった。これまでの研究は「ESDで育みたい力」で言えば、「コミュニケーションを行う力」を育むものと位置付けることができる。これらのことから、本研究主題の設定は、これまでの校内研究や綾北中学校で重点的に取り組んできた教育活動を、ESDの視点から見つめ直していくことで、さらなる改善を図り、拡充・深化を目指すものであるといえる。

さらに、令和3年度から5年度までの3年間は、ESDに加えSDGsの視点も取り入れた指導の改善を図ってきた。SDGsの17の目標を意識させ、世界の様々な解決すべき課題に着目させることで、生徒の興味を引きやすい魅力的な授業を行うことを目指してきたが、今年度は一度ESDに立ち返り、そこに重点を置くことで、生徒たちの持続可能な社会を創っていくための力をより一層伸ばしていきたいと考え、副主題の一部を変更した。

2 実践の内容

（1）研究組織・概要

校内研究推進委員会（校長・教頭・教育計画担当総括・校内研担当・ほか7名）を中心に校内研究について計画した。異教科による4つのチームを構成し、全職員がいずれかのチームに所属した。チーム会議を年に3回開催し、特設授業についての意見交換の場とした。「校内研だより」を発行し（年間7号）、校内研究の活性化に努めた。

（2）ESDへの理解を深める研修

元宮城教育大学学長の見上一幸氏を講師に招き、ESDへの理解を深める研修を行った。「ESDで育みたい教科の力」という主題のもと講義をしていただいた。その内容を受け、教科学習

の中で ESD の視点から生徒の「学びに向かう力」を育てていくために我々教員が意識すべきことについて、職員でアイデアを出しあった。

(3) 授業研究

① 全職員による授業公開

授業公開は前期・後期でそれぞれ 1 人 1 回以上とした。前期は簡易型公開授業とし、学習指導案を作成せずに行うことで気軽に授業を公開できるシステムとした。後期は学習指導案を各自作成し、単元の評価規準や本時の目標・展開の詳細を記したものと、2 回目以降の公開授業で用いる、簡略化された本時案のみを記したものを用意した。学習指導案には「あやせ学びづくり運動」の取組として振り返りの方法についても記述することとした。

② 特設授業

●「立方体の切り口の図形を考えよう！」

既習事項の平面は最低 3 点あれば決定するなどの知識をもとに立方体の切り口を考えさせた。生徒たちは、プリントで切り口を考えたり、実際に立方体を切ったりしながら、課題の図形に迫っていった。空間図形は苦手な生徒が多いが、実際に立方体を切ることでイメージすることができ、生徒が多面的、総合的な思考につながる授業づくりができた。

●「気象予報士への道～Part.1

7 日間の天気の様子を辿れ～」

1 週間の天気を予想させた。本時を経たことで、それぞれの気象現象が繋がりをもっていることに気づき、それを整理しながら話し合うことができた。生徒たちはこれまでに学習した「雲のでき方」や「気圧配置」に関する言葉を積極的に使って話し合いを進めていた。学習内容のつながりを実感させ、話し合い活動を通したコミュニケーション能力の育成につなげることができた。

●「安全な住まいを考えよう！」

家庭内事故を防ぐために班ごとに何に気を付け、改善していくべきか考えさせた。どの班も活発に意見交換を行い、中間発表では他の班と

の違いを見つけ、質問し合う様子も見られた。未来を予測し、計画を立てる力や批判的に考える力の育成につなげることができた。

●「目的を達成する、作物を育てよう」

ブロッコリーをペットボトルで水耕栽培する育成計画を作成させた。生物育成の目的である「品質の向上」と「安定性」でチームに分かれ、育成計画を共有し、ペットボトル加工を行った。責任を重んじ、進んで参加する態度や他者と協力する態度の醸成につながる授業づくりができた。

(4) アンケートの実施

① 生徒向けアンケート(6 月・2 月)

② 教員向けアンケート(6 月・2 月)

3 実践の成果と課題

(1) 教員への研究主題の理解の浸透

本年度は研究 4 年目となったが、研究主題の一部を変更し、ESD に重点を置いた授業改善を図ることを重視した。研修会では、研究主題への理解を深める場を設けた。また、協議では、どのように ESD の視点を取り入れていくべきかを話し合った。他にも、「校内研だより」に授業実践を載せ、ESD に重点を置いた授業について考える機会をつくった。その結果、6 月と 2 月に行った教員向けアンケートを比較すると、研究主題への理解度が高まると同時に、ESD の視点に立った授業づくりの具体的なイメージを持てている職員の人数も増えていた。また、ESD の視点に立った授業づくりは、社会に出ていくための資質・能力の向上に効果的であるという意見が得られた。

（２）持続可能な社会に向けた価値観を持った生徒について

【生徒アンケートの主な項目についての変化】

質問項目	実施時期	1回目 6月	2回目 2月
私は授業に意欲的に取り組んでいる。		85.0	84.7
私は授業で自分の考えを表現（書いたり、誰かに話したり、発表したり）する活動ができている。		72.8	71.3
私は授業で他の人の考えを聞いたり、発表を聞いたりする活動ができている。		84.6	86.1
自分とは違う意見から学ぶことがあると思う。		85.0	85.9
他の意見や考え、他からの情報を得たとき、それをうのみにせず自分なりによく考え理解し、自分の考えに取り入れることができる。		73.9	77.3
目的や目標、課題に対して先の見通しをもって計画を立てることができる。		59.6	62.3
課題を解決するために、いろいろな角度からものごとを見たり、考えたりすることができる。		67.6	66.7

※ 6件法の項目「1（あてはまらない）」～「6（あてはまる）」のうち、「4～6」を選んだ生徒の割合を％で示した。

※ 肯定的な意見の割合が増加した項目は、黒塗りにしている。

肯定的な回答が多く、4年間の研究の成果が伺われる。特に「批判的に考える力」「未来を予測して計画を立てる力」「多面的、総合的に考える力」「他者と協力する態度」が一定程度養われていることが示唆された。

4 今後の展開

次年度以降もこれまでの研究経過を継承しつつ、引き続き「持続可能な社会に向けた価値観」を育むことを核としていきたい。特に「学びに向かう力」を身につけられるような授業改善に取り組みたい。各教科の学習において「地域とつながりのある学習」や「身近な事象と結びつけた学習」を行うことが、生徒の「疑問」や「学びたい」意欲を生み、「学びに向かう力」を育むきっかけになることを確認できた。本年度得たことを次年度に活かし、生徒が主体的に学び、学んだことを地域や社会に活かすことができる、探究型の学習に向けた研究を模索したい。